

# 五所川原・金木地区版

保存版

## 五所川原市地震ハザードマップ

五所川原市地震ハザードマップは、五所川原市に最大の影響を与える地震を想定し、その地震が発生した場合に、市内の震度分布や建物の被害の程度などを予測し、避難施設等とともに地図に示したものです。

大規模な地震が発生した場合、建物が倒壊するだけでなく、転倒した家具の下敷きになるなどにより人命に大きな影響が及ぶこととなります。また、強いゆれや地震の液状化などの影響により、道路や電気・水道等のライフラインが寸断されるだけでなく、火災の発生などにより大きな被害が生じる恐れがあります。こうした大きな地震から人命や財産を守るためには、住宅などの耐震化に最優先に取り組んでいく必要があります。

市民の皆さんは、この地図を参考に自宅や地域の状況を知り、日頃から地震に対する備えを心掛け、建物の耐震化を進めていただくようお願いいたします。

なお、この地図に示した震度分布は、想定した地震によって生じるゆれの大きさや一定の条件のもとで予測したものです。そのため地震が発生する場所やその規模によって、実際はこの地図のとおりにならないことがあります。

平成30年5月

五所川原市 建設部 建築住宅課  
〒037-8686 五所川原市字布屋町41番地1  
TEL 0173-35-2111 FAX 0173-35-3617

### ■地震ハザードマップとは

#### ○地域の危険度マップ

「地域の危険度マップ」とは、五所川原市で想定される最大規模の地震が発生した際の地域ごとの震度、建物の構造（木造・非木造の別）及び建築年次別の建物棟数の推計結果を利用して、過去に生じた地震による各地の建物の被害状況に基づく経験式により、50mメッシュ（50m×50mの区画）単位でメッシュ単位の全壊率を算出し、その結果を5段階で地域の危険度として示したものです。この危険度が高い地域ほど相対的に被害を受ける建物が多いことを示しています。

実際には、地震に対する建物の強さは、個々の建物によって異なります。そのため、危険度が高い地域であっても耐震性の高い建物は倒れにくく、反対に危険度が低い地域であっても老朽化の進んだ建物は倒壊の危険性が高くなります。特に、建築してから年数が経過した古い木造建物は地震に弱い傾向がありますので、危険度が低い地域であっても十分な注意が必要です。古い木造建物にお住まいの方は、耐震診断を受け必要場合は耐震改修工事を行うことをおすすめします。なお、本図の「地域の危険度マップ」や「ゆれやすさマップ」は、内閣府防災担当「地震防災マップ作成技術資料」（平成17年3月）を参考に作成しています。

#### ○ゆれやすさマップ

「ゆれやすさマップ」とは、五所川原市付近を震源とする地震（地震の規模：マグニチュード7.3）が発生した場合に、市内各地域の地盤の状況から、地域の地盤のゆれやすさを震度として評価し、50mメッシュ単位に示した地図です。なお、震源の位置や地震の規模が異なれば、地域の地盤のゆれはこの地図に示した震度より強くなったり弱くなったりすることがあります。

#### 昭和58年日本海中部地震による被害

昭和58年（1983年）5月26日正午、本市の西南約110km（秋田県能代市の西方沖）の日本海で、マグニチュード7.7の「日本海中部地震」が発生しました。

この地震は深浦湾で震度5、青森市で震度4を記録するとともに、直後に津波が日本海沿岸へ襲来しました。

本市でも市浦地区の十三瀬河口付近で、津波により6名の犠牲者を出したほか、低地の一部では地盤の液状化が発生し、農地や都市基盤施設、ライフライン等に被害を生じました。住家では、五所川原地区で113棟、金木地区で68棟、市浦地区で95棟（うち全壊2棟）の被害が生じています。

写真：市浦地区の海岸（十三瀬大橋西側）に建てられた津波犠牲者の慰霊碑

地区名	住家被害				
	全壊	半壊	一部壊壊	被害額	
五所川原地区	0	15	98	113	143,100
金木地区	0	5	63	68	99,150
市浦地区	2	35	58	95	206,100
合計	2	55	219	276	448,350

#### ○液状化危険度マップ

地盤の液状化とは、地震の強いゆれにより、地下水に満たされた砂質の表層地盤が支持力を失い、砂や水が地表に噴出する現象をいい、住宅や農地、道路、堤防、ライフライン等に大きな被害をもたらすことが知られています。本市でも、昭和58年日本海中部地震の際に、地盤の液状化により大きな被害を経験しています。

「液状化危険度マップ」は、平成7～9年に実施した青森県地震・津波被害想定調査の結果に基づき、大きな地震が発生した場合の表層地盤の液状化の危険性を示したものです。なお、実際に液状化が起きる範囲は、地盤のゆれや地域の地盤条件・地下水の状況などにより異なるため、この地図で示された範囲以外でも液状化が生じる可能性があります。

### ■緊急時の連絡先・安否情報の確認

#### ○緊急時の連絡先

名称	住所	電話番号
市役所	字布屋町41-1	0173-35-2111
金木総合支所	金木町朝日山319-1	0173-35-2111
五所川原消防署	中央四丁目130	0173-35-2019
東分署	大字原子字山元42-2	0173-29-2119
金木消防署	金木町菅原367-1	0173-53-2322
警察		
五所川原警察署	字栄町6-1	0173-35-2141
金木分庁舎	金木町芦野216-89	0173-53-2117
家族の連絡先など		

家族の集合場所（日頃から家族で話し合って、いざというときの集合場所を決めておきましょう。）

#### ○安否情報の確認

地震などの災害時には、一般電話などがつながりにくくなります。災害時に家族や知人の安否確認ができるよう、非常時の連絡方法を覚えておきましょう。

#### ○災害用伝言ダイヤル「171」

伝言の録音  
171-1 → 被災した家の電話番号 → 伝言を入れる（30秒以内）  
被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を市外局番からプッシュする。

#### ○携帯電話の災害用伝言板

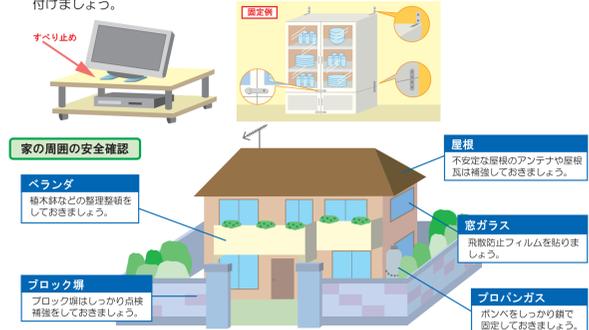
ながれ  
「伝言板にアクセス」⇒「登録」  
NTTドコモ → トラブミー  
au → au  
ソフトバンク → ソフトバンク  
ワイコム → ワイルコム

※地震等の災害発生時に、被災地への連絡がつながりにくい状況になった場合に開設されます。※毎月1日、15日、正月3日、防災週間、防災とボランティア週間には、体験利用ができます。※インターネットへ接続できるパソコン・スマートフォン・携帯電話では、「災害用伝言板web171」<https://www.web171.jp> もご利用いただけます。

### ■地震への備え

#### ○被害を防ぐポイント

- 家の中の安全確認
- 戸建住宅などの場合はできるだけ2階で寝るようにしましょう。
  - 家具には、転倒防止金具を取り付けましょう。
  - 部屋の入り口付近には物を置かないようにしましょう。
  - テレビや置物などは、すべり止めを取り付けましょう。
  - 食器棚や本棚などは、扉が開かないようにと金具を取り付けましょう。



#### ○非常持ち出し品

貴重品	非常食	その他
<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 預貯金通帳 <input type="checkbox"/> 印鑑 <input type="checkbox"/> 運転免許証 <input type="checkbox"/> 鍵（家の玄関・車）	<input type="checkbox"/> 缶入りカンパン <input type="checkbox"/> ペットボトル飲料水 <input type="checkbox"/> インスタント食品 <input type="checkbox"/> 缶詰類 <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き <input type="checkbox"/> 紙皿・紙コップ <input type="checkbox"/> 水筒	<input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 予備の電池 <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> ビニールシート
生活用品	救急医薬品	
<input type="checkbox"/> 衣類 <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> ヘルメット <input type="checkbox"/> 雨具 <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> 高齢者用品 <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> ラップフィルム <input type="checkbox"/> ディッシュ・ウェットティッシュ	<input type="checkbox"/> マスク <input type="checkbox"/> 絆創膏 <input type="checkbox"/> 絆創膏 <input type="checkbox"/> 絆創膏 <input type="checkbox"/> 絆創膏 <input type="checkbox"/> 絆創膏 <input type="checkbox"/> 絆創膏 <input type="checkbox"/> 絆創膏	<input type="checkbox"/> 風邪薬 <input type="checkbox"/> 胃腸薬 <input type="checkbox"/> 各自の常備薬 <input type="checkbox"/> 湿布薬 <input type="checkbox"/> 脱脂綿 <input type="checkbox"/> 消毒薬

※ 家族に必要なものをよく話し合っておきましょう。

### ■地震の知識

#### ○地震の起こるしくみ

日本は、「陸側のプレート」と「太平洋プレート」、「フィリピン海プレート」の境界に位置しており、地震が多く発生する国です。地震の起こる方は、大きく「活断層型地震」と「海溝型地震」の2種類に分けられます。

#### 活断層型地震

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることでひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面に沿って地盤がずれ動き、地震が起こります。

#### 海溝型地震

海側のプレートが陸側のプレートの下にもぐりこむことで、境界にひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときにプレートが元に戻ろうとすればね上がり、地震が起こります。「太平洋プレート」と「フィリピン海プレート」は、年間数cmの割合で「陸側のプレート」にもぐりこんでいます。

#### 【震度とマグニチュード】

地震のエネルギーの大きさをマグニチュードと呼び、地震の揺れる大きさを震度と呼びます。マグニチュードが大きい地震でも、震源が深い場合や震源が浅い場合、震度が小さくなります。マグニチュードが1増えると、地震のエネルギーは約32倍になります。したがって、マグニチュード8の地震は、マグニチュード7の地震の約32倍ものエネルギーを持った地震であるといえます。

#### ○震度と想定される被害～震度による人や建物、家具などへの影響～

震度	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
3	屋内にいる人のほとんどが、ゆれを感じる。歩いている人の中には、ゆれを感じる人はいない。睡っている人が、目覚めます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少しゆるむ。
5弱	ほとんどの人が驚く、歩いている人のほとんどが、ゆれを感じる。睡っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きくゆれ、棚にある食器類、書籍の本が落ちることがある。座り掛けた家具の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものも倒れることがある。	電線が大きくゆれる。自動車やトラックが揺れる。まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れる。道路に被害が生じることがある。
5強	大半の人が、物がつかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書籍の本で、落ちるものもある。テレビが揺れ落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が倒れることがある。揺れが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6強	立っていることができず、はわいどと動くことができない。ゆれにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀も破損するものがある。
7	震度6強に同じ	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀も破損するものがある。

資料：「気象庁震度階級間連訳表」（平成21年3月31日改定）

### ■緊急地震速報が出されたら

「緊急地震速報」は、地震により予想される震度が5弱を超えた時に発表され、テレビやラジオ、防災行政無線、携帯電話端末で報知音が鳴ります。緊急地震速報を見聞きしてから、強いゆれが来るまでの時間は数秒から数十秒しかありません。まわりの人も声をかけながら、あわてず、まず身の安全を守るための行動を取るようしてください。



#### 家庭では

- 頭を保護し、しゅうぶな机の下など安全な場所に避難する。
- あわてて外へ飛び出さない。
- むりに火を消そうとしない。

#### 自動車運転中は

- あわててスピードをおとさない。
- ハザードランプを点灯し、まわりの車に注意をうながす。
- 急ブレーキはかけず、ゆるやかに速度をおとす。

#### 人が大勢いる施設では

- 係員の指示にしたがう。
- あわてて出口に走り出さない。

#### 鉄道・バスでは

- つり革、手すりにしっかりとつかまる。
- ゆれがおさまったら、津波に備え直ちに高台へ避難する。

#### 山や崖の近くでは

- 落石やけが崩れに注意する。

周囲の状況により、具体的な行動は異なります。日頃からいざというときの行動を考えておきましょう。

#### ○耐震診断のすすめ

地震時の安全のためにはわが家の耐震性能を知ることが第一歩です。建築住宅課では、県が作成した「青森県木造住宅耐震改修ガイドブック」を無料配布しています。また一般財団法人日本建築防災協会のホームページでは、インターネットでできる「誰でもできるわが家の耐震診断」や、リーフレット「誰でもできるわが家の耐震診断」を公表していますので、耐震診断や耐震補強工事を検討されている方は、是非参考にしてください。

ホームページアドレス <http://www.kenchiku-bosai.or.jp/seismic/wagaya.html>

### ■地震発生時の注意及び心得②

#### ○地震による火災を防ぐために

火災が発生した場合は消火器などを使い、初期消火に努めましょう。まず、周囲に「早く知らせ」、小さい火事のうちに「早く消し」、天井まで火が燃え広がったら「早く逃げましょう」。防災訓練などでは、消火器の使い方を練習しておきましょう。

【消火器がない場合の火元別初期消火方法】

<b>油なべ</b> 水をかけてはいけません。毛布や大きめのタオルをぬらして、火の手前からなべ全体にかけて水をかけます。	<b>石油ストーブ</b> 上から一気に水をかけます。灯油がこぼれていたら毛布で覆って水をかけます。	<b>衣類</b> 転びまわって火を消します。髪の毛の場合は、頭からタオルなどで布をかぶります。
<b>電気製品</b> 感電しないように、コンセントを抜いてから消火します。	<b>カーテン・ふすま</b> 天井に火が燃え広がると、カーテンが落ちて消火します。また、カーテンは引きちり、ふすまは留めて消火します。	<b>風呂場（ガス式）</b> ガスの元栓を閉める前に、火の勢いが強くなるように開けて消火します。

#### 【地震保険について】

地震保険は地震や噴火、津波を原因とする火災、損壊、埋没または流失による損害を補償する地震災害専用保険です。地震保険は、火災保険に付帯する方式での契約となり、火災保険への加入が前提となります。詳しくは、各損害保険会社の相談窓口または代理店にご相談ください。

#### ○応急手当

地震時に多数の人がけがをした場合は、救急隊による救護が望めないことも考えられます。そのような事態に備え、適切な応急手当の方法を身につけておきましょう。

#### 出血したとき

- 傷口にガーゼや布を直接当てて、強く圧迫します。
- 手足は心臓より高い位置に上げて止血しやすくなります。
- 止血ができない場合は、傷口から心臓に近いところを、包帯などで固く結び圧迫します。

#### 骨折したとき

- 動かさないようにし、傷があれば止血・消毒します。
- 添え木は身近なものを代用し、骨折部分の上下の関節を2カ所以上結んで固定します。

#### やけどをしたとき

- やけどをしたところをすばやく水で冷やします。痛みや熱を感じなくなるまで充分冷やします。
- 服を着ている場合は、そのまま服の上から水をかけて冷やします。
- 広い範囲にやけどをした場合は、ホースやバケツなどで水をかけるか、浴槽の水につかって冷やします。

### ■地震発生時の注意及び心得①

#### ○地震発生時の行動

地震発生時は、あわてず、落ち替えて、身の回りの安全を確認しましょう。

地震発生 2分 5分 10分 数時間 3日（時間の目安）

身の安全	火の確認	家族の安全	避難の準備	救出活動	避難生活
落ち着く！ 身を守る！ ゆれがおさまってからあわてずに火の始末	出口の確保！ 周囲の火の点検！ ゆれがおさまってからあわてずに火の始末	余震注意！ 家族の安全の確認！ ラジオを聞く！ 持出品用意！	災害時要援護者の安否の確認！ ガス栓閉める！ ラジオを聞く！ 行き先メモを玄関に貼る！	消火活動！ 救出活動！ 家族の倒壊など危険があれば必ず避難！	非常備用品で自給自足！ 市の広報に注意！ 地域のみんなで助け合い！ ルールを守って避難生活！

#### ◆いざというときの助け合い ～自主防災組織～

大規模な地震災害が発生した場合、身の安全を自分だけで守るには限界があります。地震直後に発生する火災の消火や、がれきに埋もれた人の救出など、いざというときは、隣近所の協力、助け合いが大切です。自主防災組織は、地域の方々がお互いに協力し、災害から自分たちの地域を守るために結成される組織です。地震は、いつ起こるか分かりません。日頃から、近所同士が少しでもコミュニケーションを深めておくことが大切です。

#### ○避難時の留意点

避難時は、余震に注意し、ケガをしないように落ち替えて避難しましょう。

<b>火の元の確認</b> 避難する前にもう一度、火の元を確認しましょう。	<b>安全な服装</b> 長袖、長ズボンなどの安全な服装で、建物のそばや細い路地を避け、徒歩で避難しましょう。	<b>足元に注意</b> 電柱、ブロック塀、ガラス、切れた電線などに注意しましょう。
<b>階段から避難</b> 避難時はエレベーターを利用せず階段から避難しましょう。	<b>安否情報を知らせる</b> 玄関に避難先や安否情報を記したメモを残しましょう。	